

## 令和四年 振り返っての総括

この一年を振り返ってみて総じてよい年であったと思います。1月から3月は横浜 鎌倉 藤沢 葉山 逗子方面に何度も出かけて歩いて具(つぶさ)に散策視察をすることができました。伊豆半島も一周しました。4月から6月までは司法試験の勉強に没頭しておりました。7月から10月までは通院そして入院生活でした。9月はシンガポールで過ごしました。11月から今年12月は仕事に集中出来ていたかと思います。今年には特に本堂内外の大改修工事の一年となりました。すべてリニューアルとなります。また住職就任から15年 檀家制度の廃止から10年の節目の年となりました。就任から5年は特に経済的基盤の構築のため休みなく働き残業残業の毎日でした。身を粉にしてもっともよく働いた時期だったかと思います。ここで猛烈に企業戦士のように働き猛勉強もしていたと思います。今日の下地のほとんどはこの時につくられたと思います。この時に檀家制の限界に気づき新時代のためのお寺づくりに取り組み始めました。廃止宣言後のこの10年はまさに戦いの歴史そのものだったと思います。これが成功した理由は一口に言えば利潤の追求は考えなかったことだったと思います。お金のために働くのではなく当時はお寺の仕事が大好きで誰よりも愛していたと思います。夜中に飛び起きて霊柩業務をしていたこともよくありました。今でもありますが。当時はひとりでこなすこともかなりありました。亡き母も夜中に起きてよく安置室の準備を手伝ってくれたものです。純粹にひたむきに無邪気にやっていたと思います。これがよかったのだと今改めて思い起こすことがあります。お寺の世界に疑問を持ち少しでも檀信徒の負担を減らしたい、社会貢献がしたいその一心だったと思います。だから仕事を楽しかったし苦にならなかったのだと思います。今は亡き稲盛和夫氏の「人の道として正しいことを追求し正しい思いをもってやっていけば必ず成就する時が来る」ということばを信じ続けてきました。「事業を起こす、動機善なりな否や、私心なかりしか。」何度も自問自答した覚えはあります。利他、他によかれし。世のため人のためになる仕事がしたいと自然に思えるようになりました。これまで私は宗門や檀信徒をはじめ各方面から数多の誹謗中傷を受けてきました。罵詈雑言もあげればキリがありません。「あなたのことなどどこに行っても悪口しか言われてないよ。」とも。罵声を浴びせられたことも幾度となくあります。それでも耐え忍び乗り越えてきました。こうした苦悩と修行の連続を

経験してきたためにそれが今は財産に宝になっています。そのために今は気になることは何もありません。私は本当の利他とは自己犠牲、滅私奉公の中にあるのだと思います。自らは罵られ悪役を買ってでも今の世の中をもっとよくしたいという一心でしか成立しないものであると思います。今は数多の信者に支えられてもっとも至福の時を過ごすまでになりました。寺院業務はおかげさまですべて順調で今年の決算は2億円を超えてくると思います。過去最高の年になることは間違いありません。職員全員の給与と賞与も大幅増です。人事面でも永平寺で4、5年修行後に東京の別格寺院にて20年以上の勤務をした経験豊富なエース級の僧侶の採用も内定しております。僧侶も下積み修行を10年以上した人でないものにはなりません。他人の飯を食い報酬をできるだけもらわないで弁道(勉強)修行をしてきた人しか本物にはなれません。そのような人は一生 生活に困ることはありません。報酬目的の出家者たちは今を見ればわかります。今 充実している僧侶はまともな人たちです。これまで真面目にやってきた証拠です。今ダメな僧侶はニセ僧侶です。ふるいにかけるのが今です。コロナ禍とはそうした事実を暴くことにもなります。こうした中、住職代行のできる人の起用にも目処が立ってきました。トリリンガルの学生も面談に来られました。しかも長身でハンサムでスポーツマンです。来年は飛躍の年になること疑いなしです。私の代わりも見つかるかもしれません。私の場合はこの地域の人たちとは折り合いがよくなく考え方が合わなかったので別の道も模索しております。非協力的だった人たちにはもうさようならです。母も亡くなり無理してまでも年配者との付き合いもいらなくなりました。葬式仏教や先祖教への関心はありません。最近 台湾の葬儀屋さんから台湾では葬式仏教や先祖教は二流三流の俗人僧侶たちの仕事で一流の僧侶たちはしないのです。と教えてもらいました。一流の僧侶は生き方そのものが布教でその周辺には信者たちが群がり崇め奉っているというのです。葬式をする必要などないとのことでした。私もそれにあやかりよほどの人でないとやってやらないよと言っております。都会的現代的なので保守的高齢層とは肌が合わず田舎のお寺向きではなかったかもしれません。ただの年金生活者ではなくこれまでに偉業を成し遂げてきた人の意見は聞きましょう。第一線で最前線で活躍している人たちを見ていきましょう。私の場合は宗門人や仏教界の人たちとも刺りが合いません。お寺の仕事はすでにやり尽くしたとさえ思っています。今年はマンションの購入も決めました。ただ当院のシステムの99%は私が考案したもののなので私以外の人ができるほど簡単ではありません。これだけの新寺院システムを創り上げ

ることができる人はいないだろうと自負しています。実質的な創業者でありオーナーでもあります。そのため権限は持ち続けなければいけません。宗教的制  
度事業家としての地位は不動のものにしたかもしれません。新時代 新生活  
新体制への道筋をつけることはできたと自負しております。あとは天命に従い  
縁に導かれるのみです。そもそも時代はつくるものです。生活は変えていくも  
のです。体制は壊していくものです。この一年は永平寺修行時代に苦楽をとも  
にした尊敬できる先輩後輩が突如 鬼籍に入られました。数少ない好感を持て  
た人たちただただかなりショックを個人的には受けました。今年は私自身  
も腫瘍の摘出手術を受けました。人生観が変わる歳となりました。Apple の創  
業者スティーブ ジョブズではないですが今日が人生最後の日であったなら何  
をするだろうかを考えるようになりました。入院中も人生とは何かを思索して  
おりました。人はなんのために生きているのか。一体そこにどんな意味がある  
のか。死んだらどうなるのかと。釈迦は最後の説法で自燈明 法燈明を説きま  
した。最後まで諦めずに怠らず勤め励めよと。自らの死を前に嘆き悲しむこと  
なかれと。死の床について釈迦は西に沈む夕日を見つめながらこの世はなんと  
美しいのだ、人生は甘美なものであったと呟いたと言われています。人生は苦  
なり。厭世的世界観をもって弟子たちを導いてきた釈迦も最後は真理である本  
音を語ったのだと思います。涅槃の境地にたどり着いたやすらぎの心境を吐露  
されたんだと思います。今やるべきことをただひたすらにやり生きていくこと  
しかないんだと私は思います。それを釈迦は自らの身をもって説き示し完全燃  
焼のところに涅槃があることを教えたのかもしれません。所詮は私たち仏教徒  
は釈迦の掌の中にあります。逃れられない運命の中で。私ももがき続けながら  
懸命でありたいと思います。光陰矢の如し。あっという間に時だけは過ぎ去っ  
ていきます。生死(しょうじ)即涅槃(ねはん)。常に涅槃とともにあり生死の中  
にあるのだと思います。生死は仏の御命なり、と。ここに自らの使命、運命を  
賭けて挑戦する日々をまっとうしていきたいと思います。第二の人生の幕開け  
を前に熟慮を重ねる日々です。それなりには当然に仕掛けてはいきます。次は  
本格的なオフィス ラウンジ カフェ ホール ゲストルーム等を兼ね備えた  
最新の宗教的施設が建設できたらとは思案中です。今 ほとんどの寺院では  
伽藍の維持ができなくなっていると言われています。答えは簡単です。先祖教  
が廃れて寺院の役割がなくなってきたと言うことです。檀信徒の寄付で伽藍や  
境内整備をしてきただけなので檀家なしでは生きられないのが今のお寺です。  
すべてが依存 過保護政策の中でやってきただけです。自立ができていませ

ん。当院は他力本願から独立採算へでやってきたために檀信徒の力などまったくいらなくて悠々自適です。優良企業と同じです。自分たちで考え自分たちで働き自分たちで維持できるお寺になりました。伽藍もすべて自分たちの資金で建立 維持もです。それに共感する信徒が引けも切らず押しかけているだけです。極めて常識的なことをしているに過ぎません。職員関係者は一様に澆瀨として働き檀信徒に阿(おもね) ことは何もなく感謝されることしかなくなりました。私も自由奔放に振る舞い頭を下げるなど何一つありません。こんなよいことはありません。理想なお寺にすることができました。これが理解できないのは宗門人と一部の旧檀信徒だけです。戦後の宗教政策の総決算をさせていただきました。宗派レジームからの脱却にも成功したと思います。来年は新たな段階に入っていきます。一部の寺院だけに信徒が集中する時代です。一部の僧侶だけが忙しい時代になっていくことでしょう。すでにそうなっていますが。コロナ禍はそれを加速化させました。宗教界も実力主義になります。遅まきながら。人々はそれを見極めていくことになります。私はいち早く僧団(サンガ)をつくっておきましたがこれが正解でした。志を同じくするチームがあるため孤立することはなく常に情報交換と切磋琢磨の日々です。来年には本堂改修落慶法要 先住忌 寺族忌 研修会を予定していますがチーム見性院ですべて賄いこなすことにしています。一寺院ですべてできるようにした画期的寺院システムかと思っています。今年の8月盆法要(施食会)もチーム見性院僧侶10名で行い一日八座で超満員御礼でした。来年は十座にしないといけない盛況ぶりです。そして何より毎日が楽しくて仕方がありません。見性院ほど楽しいお寺は今の世の中にはないと思います。今年に神仏に最高の一年をありがとうございました。と、声高に叫びたいと思います。ありがとうございました。南無帰依仏 南無帰依法 南無帰依僧

合掌  
令和4年12月20日  
見性院住職